

令和5年10月3日

発 言 者	発 言 要 旨
石塚委員	本県の酪農業の現状はどうか。
畜産振興課長	令和5年2月現在の酪農家戸数は186戸、乳用牛の飼養頭数は約1万1,200頭であり、4年2月から14戸、約500頭それぞれ減少している。また、県内の生乳生産量は4年度で約6万3,000tとなっており、半分程度が東北管内で消費されている。
石塚委員	牛乳等の消費拡大に向けた取組み状況及び減少傾向にある県内酪農家に対する支援内容はどうか。
畜産振興課長	山形県牛乳普及協会が中心となって県産牛乳の消費拡大を図っており、令和5年度は6月1日と9月1日の2日間、山形駅等で県産牛乳の200mlパック約1,600個を配布した。 酪農家への支援としては、飼料価格高騰対策として配合飼料の価格補填や自給飼料増産支援を実施しているほか、酪農経営の要となる乳用牛の改良を推進している。
石塚委員	酪農業におけるDX推進について県の所感はどうか。
畜産振興課長	本県は、牛の発情発見システムや分娩監視システム等の導入事例はあるが、小規模経営事業者が多いことなどから全体的な導入は進んでいない。 省力化のためDX導入は重要であり、県として支援していきたい。
石塚委員	今夏の高温による農産物への影響により、農業者の収入減少が見込まれるが、県内農業者の収入保険等への加入状況はどうか。 また、保険未加入者に対する加入促進策は検討しているか。
農政企画課長	水稻生産者の多くは水稻共済に、一部は収入保険にそれぞれ加入している。他方、果樹生産者は保険加入率が低い。なお、青色申告者のうち33%が収入保険に加入している。 県としては、個々の経営リスクに応じたセーフティネットへの加入を促進していきたい。
石塚委員	セーフティネットへの加入に対する県の取組み状況はどうか。
農政企画課長	加入推進のため、令和4年度にはセーフティネットに関する研修会開催に対して助成したほか、収入保険新規加入者に対する保険料助成を実施した。 5年度は県内地域ごとに市町村等と情報を共有しながら、現場レベルでタスクチームを作り、農業者にセーフティネット制度の必要性を理解してもらえるよう働きかけている。
石塚委員	今夏の記録的高温の影響を踏まえ、農産物の次期作支援が必要ではないか。ま

発 言 者	発 言 要 旨
農政企画課長	<p>た、栽培管理技術の指導徹底も必要と考えるがどうか。</p> <p>現在、高温による農産物への影響を調査中であり、調査結果を踏まえ必要な支援を検討したい。</p>
スマート農業・技術普及推進主幹	<p>令和5年は過去に経験のない記録的な猛暑であったことから、データの解析を進め猛暑における栽培管理技術を確立し、現場を指導していきたい。</p>
石塚委員	<p>県による農業近代化資金の融資について、気候変動への対応として今年度予算を増額する可能性はあるのか。また、来年度予算の検討状況はどうか。</p>
農業経営・所得向上推進課長	<p>現時点で令和5年度の農業近代化資金融資枠が上限に近いと見極めながら、今年度及び来年度の予算について関係機関と対応を検討している。なお、気候変動等、災害対応に関するものは災害・経営安定対策資金が活用可能なので、複数の資金制度を組み合わせながら支援していきたい。</p>
石塚委員	<p>庄内地域の松枯れの現状はどうか。</p>
森林保全主幹	<p>令和5年9月の概況調査では、昨年より被害が多い可能性があるとの報告を受けている。詳細については今後調査を実施予定である。</p> <p>県では被害木の伐倒や、薬剤散布による防除の徹底等の対策に取り組んでおり、今後も海岸林の適正な更新や保全管理に努めたい。</p>
石塚委員	<p>今夏の記録的な高温と庄内地域における松枯れの因果関係はどうか。</p>
森林保全主幹	<p>明確な因果関係は不明である。</p>
鈴木委員	<p>高温や少雨による農産物への影響について、県ではどのように調査しているのか。</p>
農政企画課長	<p>市町村がJA等と連携して調査した内容を、各総合支庁が取りまとめている。</p>
鈴木委員	<p>今夏の高温がさくらんぼの生育に与える影響はどうか。</p>
スマート農業・技術普及推進主幹	<p>5～6月の降水量が多く、褐色せん孔病が多発したところに、梅雨明け以降に高温が続きダニの発生が多くなり、各地でさくらんぼの葉黄変や落葉が確認されているほか、梅雨明け以降、灌水等が不十分だった園地では落葉が多く、翌年の花芽への影響が懸念される。</p> <p>また、8月に高温が続いた場合、その翌年には双子果が増える傾向があるなど、生育への様々な影響が考えられることから、来年度に向けて現場に情報をしっかりと提供しながら対策指導に取り組みたい。</p>
鈴木委員	<p>さくらんぼの早生品種の開発状況はどうか。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
スマート農業・ 技術普及推進主 幹	山形県農林水産研究開発方針に基づいて品種開発を進めている。現場で求められている早生品種のほか、果肉の硬さ、着色の良さ、人工授粉が不要な品種等の開発を目標として取り組んでいる段階であり、今後有望な品種が確認されれば随時情報を提供したい。
鈴木委員	今夏の記録的高温による花きへの被害状況はどうか。
農業技術環境課 長	被害状況は把握していない。引き続き情報収集に努めたい。
鈴木委員	魅力ある園芸やまがた所得向上支援事業について、資材高騰への対応として補助の拡充を検討しているか。
園芸大国推進課 長	令和5年度から資材高騰への対応として補助の上限額を引き上げており、これ以上の支援拡充は財政的な観点から難しいと考えている。
鈴木委員	田んぼの農業用水の取水について、現状の配分ルールを変更することは可能か。
農村計画課長	一般的に農業用水の確保は、土地改良区や水利組合が関係者から水需要等を確認した上で配分ルールを決め、地域状況を勘案し対応しているものである。 県が変更の可否を決定するものではないので、土地改良区から相談があった場合には、助言指導等に努めていきたい。
鈴木委員	草刈りの手間を省く為、田んぼの用水路脇に防草シートを設置する農業者もいるようだが、田んぼの維持管理に対する県の支援状況はどうか。
農村計画課長	共同活動によって維持されている農業用水路について、県では多面的機能支払交付金で支援しており、防草シートも交付金の対象となっている。 また令和5年度から県独自の支援として、地域ぐるみ農地管理支援事業を実施しており、草刈りの省力化機材の導入等を支援している。